

## 各支部通信

### 茨城支部

當支部は現在會員數十四名で何れも各自の職分に向つて元氣に働いて居る。昨年二月母校より浦生先生の御來臨を仰いで支部創立の總會を開いた當時は總數十名に過ぎなかつたのが其の後四名を加へてやうやく十四名に達した様な次第で心細くはあるが會員の増えるのは氣持がよいものです。

貧弱な支部のこと故格別の事業も行はず恥かしい次第ではあるが區域が狭いためか會合毎に出席歩合の多いことだけは心強い感じがする。

前號の支部だよりはに通信を怠り失禮したから今回こそ充分に支部の動靜を通信したいと考へては居るが淋しい支部で格別記事のないのを遺憾に考へて居ります。

◎第一回總會（創立總會）昭和三年二月十一日開催

會場 茨城縣笠間町旅館桂城館

（尤も同日午後二時より五時までの間）  
笠間農學校應接間に於て懇談をなす

當時會員數 十名  
出席會員數 八名  
來賓者 浦生教授  
總會終了後痛飲せるため大部分が宿泊せられ懷舊談に時の移るを知らざりき、翌朝浦生先生の御歸校を停車場に見送り解散す、

◎第二回總會 昭和四年三月二十九日開催

會場 茨城縣土浦町 霞ヶ浦劇場  
當時會員數 十四名  
出席會員數 九名  
會員外出席者 唐澤正平君  
來賓者 早川教授 倉澤美徳氏

當日は同地に大日本醫學會茨城支部主催の大共進會の催ありて人出多く殊に翌日には大日本醫學會總會のため總裁附院宮殿下の御台覽ある筈にて其の前日たる當日は參觀者の殺到を豫想されたため當支部の事業として別項の如き醫業大講演會を公開して支部の存在を縣下に知らしむる計畫をして見ました。ところが不幸にして當日風雨強く人出をくぢかれたために聽講者甚だ少く最初千人を容るゝ考にて大劇場を借り入れたのに僅かに百五十名位の聽講者あるに過ぎなかつたことを遺憾に思ふ。

講演會終了後講師諸賢の慰勞會を兼ね同地に懇親會を催し長野縣蠶種同業組合側からも十余名の出席者あり舊師水井壽一郎先生も講師として御來會ありしたため極めて盛會に惹きある一夕を談笑に耽ることを得ました。

演題及講師

蠶品種改良ニ就テ

長野縣小縣郡蠶種同業組合組長 倉澤運平氏

大蠶種製造家ト蠶種優劣論

長野縣蠶種同業組合中央會議員 馬場歲次氏

蠶品種問題

長野縣蠶業試驗場長 水井壽一郎氏

茨城縣ト長野縣ト蠶業ニ就テ

長野縣蠶業課長 谷田部七五郎氏

蠶糸業經營ニ就テ 上田蠶糸専門學校教授農學博士 早川直瀨氏

會期 昭和四年三月二十九日午前九時開會

會場 土浦町東崎霞浦劇場

余興 活動寫眞「蚕の都」上映

主催 長野縣蠶種同業組合聯合會 上田蠶糸専門學校同窓會茨城支部

この講演會公開に關しては母校針塚校長先生並に早川先生の御同情と御盡力に待つ所多大にして地元佐藤義助君の斡旋振も同君ならではなし得ざる程苦心と骨折との跡がうかゞはれて會員一同の感謝して止まざる所であつた。

第三回總會

母校創立廿週年記念事業協賛會地方委員の選定を兼ね五月下旬に開催の豫定の處時恰も農繁の期に際會せると出席不能の會員多數を見受けたため書面決議に依り投票の結果中根廣君(蠶四)が委員に當選し支部長中山鑑一君(蠶三)も手分して働くことになつて居る。

隣接支部視察

隣接福島支部の活動狀態を視察がてら四月三十日から五日間はかり蠶糸業視察を兼ねての公務出張の便宜を得たので當支部長は田附卯一郎柿田賢作富澤政治諸兄の許へ御邪魔して種に便宜を興へて貰つて歸りました。現在會員は左記十四名です。

會員氏名

- 水戸農學校 橋本 廣(蠶六)(支部幹事)
- 同 原田 種龜(蠶九)

大子農學校

鹿島農學校

取手農學校

石岡農學校

眞壁郡上妻村桐ヶ瀬

新治郡眞鍋町會社支店

石岡町小口組支店內

鹿島郡白鳥村中居

石岡町小口組内

眞鍋町岡谷館内

北相馬郡北文間村須藤堀

笠間農學校

中根 廣(蠶四)(支部幹事)

川島熊太郎(蠶十二)

寺島 雅彦(蠶十三)

本谷 良雄(蠶七)

齋藤 鳳一(蠶八)

佐藤 義助(蠶十二)

相澤 仲司(糸十三)

森戸 晋(蠶十五)

武藤 寛一(糸七)

大谷 勇(糸九)

渡邊 晋吉(蠶十五)

中山 鑑一(蠶三)(支部長)

## 東 海 支 部

東海支部！

支部を有する此の世の團體で東海に支部を置かぬものは恐らく一つもないであらう。——假令それが政治的のものであつても、亦實業的のものであつても、將たまた其の他のものであつても、……こと程左様に東海は樞要な位置を占めてゐる。そしてその要位に相當した、眼覺ましい、活動をいづれもが續けてゐる。

○  
所でわが千曲會東海支部は如何だ？と聞かれたときにいや自分で考へた時恥しきに堪へぬ自實の冷汗が腋下を流れる。

今回支部便りを催促されても、報すべき何物もないのだ、前會も遂サボつてしまつたが、その時ならば報すべき材料はいくらもあつた。然し第一號渡刊以後に於ては何等材料は無い。と云つて溯つて報ずることは種が古すぎる。そんな種はいくら播いたとて芽の出シツコはない。

「近畿支部と東海支部が提携して活動すれば、同窓會の大勢も動かだらう。他の支部も屹度ついて来るだらう。」近畿支部のある男が一日こんなことを云つた。そして話は提携論、活躍論に入つて大分メートルがあがつた。勿論之は支部と支部との公的メートルではないけれども、俺達の頭にはこんな自惚があるのだ。

實際近畿支部の活躍は實に眼覺ましいものである。ある一部の問題に就いては、近畿支部の意見で同窓會全体が右し左した感がある。此の點近畿支部に對し、吾等は大いに感謝し、又敬意を表しなければならぬ。

○  
ところがその近畿支部から短い間に、小見、坂田、加美、八木小泉、中根なんて云ふ猛者連が相踵いで去つて了つたので頗に寂寞を感じたに違ひない。憤慨家のY君が氣を揉みながら、孤城を

守つてゐることであらう。と云つたとて後に人無しと云ふのではないから、近畿支部たるもの怒つてはいけぬ。多士濟々たる近畿支部益々活動を望む。

我が東海支部も一昨年夏賑々の際をあげて以來、先輩、近畿支部の教導を受けながら、且つ之を東海獨目の意見を加へて自らを鞭ちつゝある……がなさないことにはその實績はなか／＼上つて來ぬ。

○ 近畿、東海、兩支部のことから同窓會の活動(の二方法)に就いて、筆者はこんなことを考へてゐる。

吾等が同窓會員に會つて種々話し合つて見ると、學校とか同窓會とかに對して案外冷淡であることを感ずる。素より會員相互間には、一見舊知の如き親しみを感ずることも多いが、對學校、對同窓會といふ様な公的感念に至つては全く懇摺否憤懣せざるを得ない場合が多い。たまたに熱のある者であつても、その多くは至上主義、全能主義の提唱者である。吾々として勿論至上、圓滿主義は之を歡迎するけれども茲に云ふ、彼等の至上主義は盲目的なんだから困つて了ふ。

○ 何故冷淡になり至上主義になるか?、理由は種々あるであらうが要は内容を知る機會が少いからだといふ論になると思ふ。知ら

ざるが故に至上なるものだと思ひ、知らざるが故に全能なものと思ふ。無事泰平なときには自然冷くなり淡くなる。故に學校を鼓吹し、同窓意識を濃厚にするにはどうしても、支部は本部なり、學校なりの内容をよく知り、學校本部はそれを支部員に良く知らしむることに努めなくてはならぬ。それが爲めには年一回の代議員會では物足らぬ。會員は一人でも多く、また一回でも多く、本部に行く、その都度、本部は内容をよく話して聞かせる。聞いたらそれを支部員に報告する。

○ 今一ツは支部は相互に特使を派遣することだ。支部總會幹事會等は勿論その他常時でもなるべく多く、そう云ふ機會を作つてお互ひの意見交換なり、又本部に對する希望とか報告とか云ふものを語り合ふことだ。青森支部が鹿兒島支部に特派する事は不可能だなんて臆論は成り立たないヨ。

○ 近畿、東海兩支部が比較的よく接近し、且つ本部の内容等を知り良く知つてゐるのは右の特使交換による力が大きい。いづれにしても會員の一人一人が今少し眞の熱を有たれば仕事にならぬ。

○ 「近畿、東海兩支部は兎角過激だ……」と某支部の某が云つた、然し決してそうではない。至上主義、圓滿主義等大思想の輩に



非難は常に保守的退嬰的乃至固的な立場から、發展の進歩的傾向を持つ側に向つて發せられる常套語のやうに思はれる。われは「同窓會の中に今後一人の老人をも作りたくない、殊に若どしよりを出したくない」のである。

勿論われは徒らに理論を弄ぶ者ではない。代議員會の度毎に當支部は數多くの議案乃至要求を提出し來つたし、又常時に於ても屢々本部に對して難題(?)を持ち掛けるが、これ等はすべて愛會心の結晶であり、確固たる信念に基いて發生するもののみである。些細な難題に對しても必ず充分な調査研究を遂げ、慎重な熟議を以て臨むのが當支部の習慣であり、且一旦實行に移つた際には最後まで責任を負ふと云ふのがわれの態度である。勿論われもお互ひ人間であるから過誤を犯さないと限らない、然し一度自己の過失を知つた時、大膽に卒直に、これを是正することは忘れな。

X X X X X

近畿千曲には文字通り好學の士が多い。大學に籍を置く連中は勿論、會社や官廳等に職を奉ずる多くの僚友も、繁忙な勤務の傍ら、孜孜として研究の歩を進めてゐる事は、各種の専門雜誌や學術報告に時々刻々發表せられる數多くの論作に依つて知らるゝ通りである。これ等眞摯なる學徒が集れば話題は必ず學術上の問題に及び、各自自然科學や社會科學の廣汎な領域に亘つて夫々専門

の研究をさらけ出し、お互ひに智識の融通を圖ることを唯一のたのしみにしてゐる。當支部大小の會合には、同窓會の事を講し合ふ外にかうした學門上の探究が出来る事がどんなに愉快な事であらうか。若し夫れお互ひの人生觀や私的生活の内部に迄立到つて赤裸々なる交渉に入り込む時、熱き友情の抱擁はわれを感激の絶頂にまで驅り立てる。そこにこそわれの團體的人間的面上の基調が在る。

X X X X

當支部所屬會員の總數は現在六十六名、これを分拆すると次のやうな色分けになる。

科別

製糸家 三十四名。養蠶科 十五名。絹紡科 十七名。

職業別

會社員 四十五名。官公吏 七名。教職員 二名。

外に學生及研究生 七名。在自宅 五名。

府縣別

京都府 三十二名。滋賀縣 十三名。大阪府 十三名。

奈良縣 四名。和歌山縣 四名。

此の多數會員が關郡綾部、レヨン湖畔並宇治、日本經濟の心臟部大阪、學府京大、其の他紀南、奈良等々各方面に跨つて活躍をつゞけつゝある近畿千曲會の前途は洵に洋々たるものであ

× × × ×

凡そ如何なる団体を取つて見ても、その組織的内容は、団体の發展過程を示すパロメーターである。當支部に於てもその創始以來屢々組織上の進化を經て來た。現在の近畿千曲會組織の具體的内容を解剖すると次の通りである。

先づ決議機關としての總會、これは年一回（前は二回だったが昨秋の總會で一回に改正）、定期（秋）に開く。總會から次の總會に到る迄の間は殆んど毎月のやうに幹事會が開かれて會務を審議する事になつてゐる。勿論總會が最高の決議機關で、定期以外にも幹事會で専決し兼ねるやうな緊急重要な議題が生じた場合には、臨時總會を召集することになつてゐる。

執行機關としての役員には、會長一名と、外に幹事若干名（現在は十名）とがある。幹事の事務分掌は庶務、會計、編輯の三係の外に、支部内各地區の連絡統一を圖るための係が各地に散在してゐる。代議員は常設的機關ではないから、代議員會の召集前、總會に於て其の都度選出する事になつてゐる。

現在の役員氏名を左に披露しよう

|    |      |
|----|------|
| 會長 | 石原石司 |
| 幹事 | 吉川孟文 |
| 庶務 | 西山市三 |
| 會計 |      |

編輯 石原石司(兼)  
各地區 京都市(一、二郡部を含む) 碓氷 茂

練部(岡部、舞鶴を含む)

|     |         |
|-----|---------|
| 宇治  | 鈴木誠一    |
| 滋賀  | 野崎 清    |
| 大阪  | 畠山茂忠太   |
| 奈良  | 石原石司(兼) |
| 和歌山 | 高橋利光    |
|     | 藤井 料    |
|     | 甲田勝衛    |

因に當支部現在の事務所は、「京都市左京區田中大久保町六五、吉川方」に在る。

昨春小見君の支那渡行を始めとして、近畿千曲會創立以來のケルン、柴田、坂田、加美、八木、小泉、中根等々の諸君が相次いで近畿を去り、名古屋、長崎、上田、東京、臺灣等各方面に轉じて行つた。殊に會長の要職に就いた者は何れも任期一年足らずして轉任の運命に際會し、最近神戸の鐘紡營業部へ蹊轉になつた石坂會長の如きは任期僅かに二ヶ月と云ふ最短期間を作るに至るので、「會長の職と轉任は附物」と云ふエピソード迄生れるやう

になつた。

兎まれこれ等の諸君が、近畿千曲の建設と、全同窓會發展のために、多大の努力を献じられた勞を深く感謝すると共に、今後の建圖を祈つて止まない次第である。

數多くの中心人物が去つても、近畿千曲會にはあとからくゝと新進の精銳が續出し、確乎として當支部の陣營を守つてゐる。不斷の躍進をばつとけつ。(文實在筆者)

昭和四年初夏

新織鮮かなる洛北の郊外にて 吉川生記

## 兵庫縣支部

製糸科第一回卒業の林部源三郎君が當地の絹織物検査所から廣島の帝國人造絹糸株式會社検査部主任として榮轉せられたるに就いて心ばかりの送別會を行つたのは丁度昨年今頃でした。明海ビルの八階で西洋料理に舌鼓を打ちながら夕方の大神戶港を俯瞰して生糸のセリプレーン問題の批判に就て色々の議論を戦はしたのが未だ耳に残つてゐます。

今日は又製糸科第一回卒業の日本絹花株式會社に居られた丸山忠良君の紐育支店詰めとして榮轉せられる爲めの送別會を催したのでした。暫くのお名残に神戸牛の味を……、同君はほんの

( ㊦ )

一、二年間との事で何れ御歸朝の後は又以前の如く當支部の人とならるのでありますが、我々の尊敬する先輩が最近に二人も減つたことは何となく淋しく物足りない次第です。

其外製糸科第八回の加藤壺一君が昨年の暮に當地の紡機製造株式會社から埼玉縣の石川組製糸場へ榮轉せられました。近頃の會合では同君一流の名古屋辯が開かれなくなつたので一段と淋しくなりました。

以上は昨年から今年へかけて當支部を去られた人達であります。が其間當支部へ入會せられた方が八名の多きに達して居ります。結局當支部としては五名殖へた譯であります。昨年の今頃は製糸科第六回の佐藤種雄君が江南株式會社神戸支店詰として榮轉せられ同八回好士泰造君が日本絹花株式會社神戸支店詰として、郡部では同第二回の酒井五十三君が姫路片倉へ、養蠶科第十一回の丸合喜右工門君、養蠶科第十五回の片山次夫君の二氏が竹田町の山陸蠶種株式會社へ來られました。少し遅れて養蠶科第十二回の蛭田修三君が神樂生糸株式會社へ來られ、本年に入つて製糸科第十一回の青木友彌君が日本絹花株式會社へ、製糸科第十五回の佐野忠治郎君が日本生糸株式會社へ、又郡部から市部への移動では製糸科第十四回の山崎修也君が片倉姫路製糸場から神戸生糸検査所へ入所せられました。

昨年度から本年度へかけての移動は以上の如くでありまして目



下當支部總人員は市部に二十四名、郡部に十五名合計三十九名であります。

市部では松井清三君が神戸生糸株式會社で製糸家の技術指導係りとして殆んど地方への出張勝で東奔西走の有様です。お蔭で最近同店への入荷生糸の品質が著しく向上したとか大汗の努力觀面先はめでたし……。坂谷文彦君は江南株式會社で検査部主任から販賣係に破格の御昇進……。佐藤種雄君が其後を追ひ目下同店検査部主任として村山晉君と共に眞面目にいつも滴實に奮闘せられてゐる。見波忍君は安田銀行を退かれて目下立川商店で絹織物類の御商賣に御余念なく、梅澤萬治郎君は日本生糸に検査部主任として目下セリブレン検査用光線に就て種々御研究中とか。北村仲太郎君は最近紐育支店よりの歸朝者であるが目下三井物産株式會社の検査部主任としてダダつ広い検査室に數多い婦人従業員の中に只一人紅一點？セリブレンの探點に従業員の監督に夜を日についての御奮闘振り羨しいばかりです。吉岡道眞君は昨年は永らく肋膜炎のため病臥中であつたが只今では以前に増して健康体となられ新進池田商店の生糸部主任として生糸の賣込に製糸家の吸取に之又却々お忙しさうであります。最近美人の婦人を迎へられスキーも振り廻り迎も……。清水逸五郎君は今年の始め頃痔疾のため入院加療せられてゐたが目下では全快せられて只今關西生糸株式會社で御勉強中。依田武治君は日本綿花株式會社から塚島

商店營業部主任として榮轉せられ少壯敏腕家として將來を囑望されてゐる、希くは自重御自愛あらんことを……。井立喜三郎君、佐藤季子雄君の御兩人は旭シルク株式會社に御奮闘中、生糸検査所には小生を始め竹内五之助君、谷口伴次郎君、大塚重藏君、森西康充君、山崎修也君、今村與四郎君の七名何れも生糸検査の任務に盡されてゐる。阿久澤清君は市内松木通りに、郡部では八鹿蠶業學校に林新一君が蠶蠶科主任として第二國民の訓育に奮發せられてゐる。立岩笑保君、手塚雄一君、安井義忠君、渡邊亘君の四人は姫路の東洋紡績株式會社に何れも強健なる心身を以て……。酒井五十三君、金子幸一君は同じく片倉製糸所に、長池遊龜君は郡是製糸山崎工場に、和田虎三君は同じく日高工場に、四方定雄君は蠶業試驗場に、矢野昌雄君は廣谷第一農業公民學校に、荒井猛君頼本啓一君は小口組和田山製糸場に、九合喜右工門君、片山次夫君は竹田町の山藤蠶種株式會社に……。何れも皆新進英気活氣充滿一騎當千の強者ばかり希くば彌や増しに榮え行く同窓生諸君の上に誇多からんことを……。終り。(昭和四年五月末日沖清治)

## 南九州支部

近い將來に於ける日本蠶糸業の發展地は？、と言へば誰しも南九州の諸縣を一指に折ることであらう。本州中部の蠶糸業の老衰國とは異なり澁刺とした正に蠶育せんとする若々しい精力に滿ち

滿ちた南九州の斯業は天恵豊かな地に發育するだけあつて、其成長後の威大きは誰しも想像に難く無いことであらう。將來斯業の中心は必ず此の方面に移轉せらるゝてう運命を包蔵して居ることは事實だ。

南九州三縣を包含せる我支部は早くも陽春の訪れた二月十日銀杏城下熊本市中甲橋際料亭「イクス」に於て支部總會を開催した。當日出席者は福谷朝太郎(支部長)田浦準、松岡道也、父母仙藏、中島文雄、津留稔、小林重男、濱藤榮一、中島茂、甲斐孜の諸氏にして甲斐氏は鹿兒島より中島氏は宮崎より環路わざ／＼出張して其大勉強振りを見せた。午後五時開會本部諮問事項及支部規則につき協議後開宴歡樂盡くる所を知らず盛會裡に支部員相互の親睦を圖り紀念の寄せ書をなして解散せり。(小林重男生)

## 北 奥 支 部

地勢我國の北位に位する北奥の地漸く新緑加はり鹿公も時鳥も鳴いて初夏の風物一入色増し蠶況既に四蹄となれり、蠶桑繁忙の折柄なれども北奥の地我が蠶絲業には縁薄く産繭僅かに百五十六萬々に過ぎず然れども將來の開拓の餘裕綽々たるは地圖を繙いて一度目を放てば何人も首肯し得る所なり、廣袤將に八千六百里に垂々とし人口稀薄なると氣象蠶蠶に適し未耕地の多きは其の將來を語るものなり、此の廣汎なる北奥地に活動する同窓生は北海

道六一五五方里に對し僅かに三名岩手縣一〇三九方里に對し二名青森縣六三六方里に對し六名は比較的多きものなれども秋田縣七五四方里中一名にして實に七八〇方里に對して一名の稀薄さを示し誠に轉た寂寥の感なき能はざる状態なり就中北奥の地に於て比較的蠶桑業の優勢を示す秋田、岩手に於て吾等同人の活動少きは寂寥の感を一層深からしむるものなり、廣袤將に八千五百方里の地に足を止め將來の開發に努むる同窓生は地域廣汎なれば會する機會も少しと雖も共に母校に鍛へし純眞なる精神を以て孜孜止まざる次第なり、北奥の地も時代思潮の刺激により夢安かなりし自給自足經濟の満足より醒めて農村の振興絶叫せられ覺醒せる經濟的活動の現はれとして蠶業の擡頭となり各縣競ふて之に向ひ來り之に依りて振興の實を揚げ經濟的満足を得んとするものは少くとも北奥の地の蠶業に一大革新を齎すべく看過すべからざる事實となれり、岩手縣に於ては片倉製絲紡績株式會社の後援に依り半官半民の岩手縣は製絲所を創設して其縣の蠶絲業は一大進展を企圖せらるゝに至り青森縣に於ては現長官の地方産業の振興策として蠶業の一大普及伸展を期する爲めに過般突如蠶系課を分立し蠶業の獎勵普及に對する蠶系の行政の徹底を期せらるゝに至り同窓生佐藤良太郎氏課長に榮進せられ青森縣の蠶絲業の爲めに一層の努力を拂ふに至りし事は同窓各位と共に同慶の至に堪えざる所なり、而して青森縣は從來の繭市場販賣組織の改善整理を斷行し市場取

## 福島支部

引を廢し、蠶業組合員の自治的活動に依り、正量取引を勵行せしめ、以て昭和蠶業の一大進展を期する爲めに業者の意氣の振作、人心の刷新を圖り、奨励の核心を据り、將來の發達を圖るに至れり、又秋田北海道共に環境の刺激に感應して、夫々施設の擴充に努め、北奥の地將に昭和蠶業の黎明を示すに至れり、吾等同人の活動も之よりと存せらるゝものなり。

北奥の偉人をして自ら任ずる小ソールの打つ鐘の音にめざめして、曠野の開墾に努むること、吾等同人の任たるべし、地に落ちし一粒の種子の純眞なる芽生や如何に！

次に北奥支部同窓生の動靜概要を記して擱筆せんとす。

岩手縣盛岡市片倉製絲所松田敬三氏は昨秋郷里長野縣伊那富村、武井製絲所に轉ぜらる。

金澤丈也氏は昨秋郷里青森縣上北郡三本木町に歸郷せられ本春より青森縣上北郡下の蠶蠶業指導員となれり。

北海道農事試験場農林技師小林國造氏は本春四月地方農林技師に任せらる。

青森縣農林技師佐藤良太郎氏は本春五月十八日青森縣蠶糸課長に榮進せらる。

青森縣蠶業試験場小林庸氏は本春五月地方農林技師に任せらるたり 以上

（客年十二月以後に於ける、當支部會員の異動は次の通りである。曩に支部幹事として、多大の助力を與へられたる菅井辰三郎君には續續に轉ぜられ、蛭田修三君には、卒業後直ちに、當地丸共製絲所に赴任せられ、滿四ヶ年余工場の改善に努力められたる結果大に生産能率を擧げ、尙且支部の爲め盡力せられたるが、今度神戸に轉ぜらる。今年五月當地鐘紡製絲勤務の湯澤重敬君には新婚後間もなく、京都府山科の鐘紡研究所に轉勤せられた。

次に當支部に迎へたる會員には母校より、田角又十郎君が梁川の蠶業試験場に於て着々試験研究に従事である。今年の新卒業生和田益巳君には郡山片倉工場に於て勤務せられてゐる。尙今年母校を出られた池田篤治君は伊達郡栗野村の自宅に於て蠶種製造に従事し、郷黨に其腕をなして居られる。

尙支部會員の會合としては、昨年度は種々支障の爲め、其の機を得なかつたのであるが、來年は母校創立二十週年記念式を擧げられるのであるから、今年十月中には是非總會を催し、右記念式に關する審附その他の件に就き御相談をお願ひしたいと思つてゐる。尙いつもながら當支部區域なる福島縣内に新に在任せられ、又は他に轉任の場合には（右の異動に記載渡れがあるかも知れない）是非福島市谷地六、田附町一郎宛御通知を願ひ度い。

## 北陸支部

拜呈 初夏の候益々御清穆の段奉賀候 陳者再び御通信の時期と相成り候 當支部内にては格別目新しき事柄も少く候も去三月末にて石川縣鹿島郡蠶業同業組合の主催にて蠶糸講演會あり本校より佐藤利一博士の御來演ありし位にて候 支部會員の移動状態にては

福井縣三好彌市君新潟縣に轉出してその後任續かず  
石川縣登阪忠吉君 新潟縣に轉出

淺井春夫君 病氣辭任

何れも惜まれつゝ去られ候も夫々後任として左の二君を獲得致候

沼田周造君(蠶十三) 蠶業取締所

提 玄君(絲 九) 生絲検査所

何れも新知識を豊富に貯へたる新人なるにその齋任早々の獻身的の努力ありし爲めその關係向より非常に好評とか聞き及び候

富山縣 調査中に候も大体變動なき模様候

由來同窓生中訓練を缺く者多きためその生活に交渉少き場合は兎角意志の疏通に故障を生じ易きものに候も殊に數縣を拘擁する支部にありては廣き面積上に散在する會員相互の連絡に至りては不便此上無候 故に少くも會員四五名を含む時は一縣一支部が最も合理的ならんと嚴考仕り候

右御報告旁々御考察を煩し度く猶時節柄御自愛の程一重に祈上候

(三)

## 南信支部 鷗友會

昭和四年二月十三日

長野縣高等製絲講習會が岡谷で開かれた時講師として同窓の冲神戸生絲検査所長岡村縣技師の兩君が見へられたを幸ひ懇親會を上諏訪町關根に催しました。當日の來會者は前託御兩君の外に縣の南澤君兼深谷の尾澤義郎君會員は左の様で極めて打ち解けた愉快の集まりでした。

小林茂樹君 細川三郎君 角齋越夫君

三谷 勝君 河西又治君 本山正美君

佐藤 猛君 味澤泰造君 鹽原克己君

笠原 豊君 中村吉男君 島倉啓造君

赤澤辰男君 水谷郷一君 石川健丸君

三輪 輔君

五月十四日

大正三年以來十五ヶ年間諏訪に在任せられて本會のため又當地製絲業界のために盡力せられた小口組の小林茂樹君が突然高崎支店長に榮轉せられました。本會のため當地製絲業界のため誠におしことでありました何んとも致し方がありません同氏送別會を兼

れて春季例會を下濱の華遊喜で開きました。

來會者は左の諸君、盛會でした。

|        |        |        |
|--------|--------|--------|
| 八田直次郎君 | 小松忠一郎君 | 小林 啓介君 |
| 國貞 忠男君 | 小口兼雄君  | 細川 三郎君 |
| 石塚浪之助君 | 角替越夫君  | 竹本 本治君 |
| 村 田借宜君 | 河西又治君  | 笠原 松平君 |
| 西山嘉都治君 | 湯淺長輝君  | 吉田 榮治君 |
| 小山祖光君  | 香掛 聰君  | 笠原 豊君  |
| 栗野慎一郎君 | 中川 靉君  | 味澤 泰造君 |
| 島 倉督造君 | 篠原善次君  | 水谷 郷一君 |
| 石川健丸君  | 三輪 輔君  |        |

例の通り毎月三日には下濱の華遊喜に會し一夕を愉快に語り合つて居ります。毎回十五六名の出席者あり時には専門の話以外に人生問題時事問題に花を咲かせ思はず時の經つこともあります。終りに現在會員を御紹介致します。

細川 三郎 諏訪郡平野村片倉會社平野製絲所  
 角替 越夫 同上  
 石塚浪之助 同同山十會社大六製絲所  
 笠原 松平 同上  
 小林 啓介 同永明村丸茂製絲所  
 梅澤治三郎 同上

西 孝重 同平野村一組製絲所

|       |                   |
|-------|-------------------|
| 島倉 馨造 | 同上                |
| 吉田 榮造 | 同山十會社本社           |
| 武本 本治 | 同上                |
| 村田 借宜 | 同上                |
| 西山嘉都治 | 同上                |
| 中川 靉  | 同同製絲所             |
| 手塚 政吾 | 同同諏訪倉庫株式會社        |
| 小松忠一郎 | 同同冬尾澤製絲所          |
| 八田直次郎 | 同同興製絲株式會社         |
| 小口 兼雄 | 同上                |
| 國貞 忠男 | 同上                |
| 細田 親二 | 同同小口組丸山再線所        |
| 三谷 勝  | 同同川岸村片倉會社製絲所      |
| 笠原 豊  | 同同諏訪町小口組製絲所       |
| 本山 正美 | 同同片倉會社製絲所         |
| 島倉惣次郎 | 同同平野村増澤商店         |
| 中村 吉男 | 上伊那郡伊那富村片倉會社武井製絲所 |
| 松田 敬三 | 同上                |
| 竹内 清  | 同同伊北農商學校          |
| 湯淺 長輝 | 同同小野村小野製絲株式會社     |

佐藤 猛 諏訪郡湖南村東英社株式會社

渡邊 康平 同上

鹽原 克己 同上諏訪郡鹽原製絲所

河西 又治 同上諏訪町々製絲所

味澤 泰造 東筑摩郡筑摩地村共榮社

赤津 辰男 同上

荒井 猛 諏訪郡平野村小口組本部

粟野嶺一郎 同上十會社々製絲所

小山 組光 同上 同々製絲所

杓掛 聰 同上 同々製絲所

篠原 善次 同上諏訪製絲學校

水谷 郷一 同上

石川 健丸 同上

三輪 輔 同上

前略 報告が遅れて申譯けありません今度は安筑會龍川會との交渉が少しもありませんでしたからこゝには鬮友會の模様だけお知らせ致します安筑會龍川會からも報告があると思ひます併せて御記載を願ひ度いものです。

六月十七日

同窓會幹事殿

三輪

輔

## 北信支部

(八四)

此程遠國の○兄から相變らず腹のどん底からでも絞り出した様な氣持のよい、面も意味極めて深遠な手紙が届いた。其一節に「母校の現況を如何に觀察すべきか、北信支部、地元支部、何か積極的に援助して本部の諸君へ援助したらどうだ、北信支部とは長野に在る支部のことだよ」とある、是れには一本も二本も變つた、全くそれに相違ないと思へる。然し、はて、扱て何をやらうか?、と考へ様として考へて見ても急には考へ出せない、と云ふのは魂から湧き出して居らない證據だと認める他はないのか。

實際屁も放らずに黙々として只々忙しいとか、なんとか辯解して居るのも決して愉快とは思へない、どうだ一番大いに「メートル」でも擧げるか、其の邊の作業ならば、人手も借りずに單獨でも確實にやれる自信は充分有るのでが、今日此の頃では皆働口になつて夫れさしい相手に乏しい世の中となつたと云ふ時代の變り方である。

本當の所を云へば何か有意義な事業でも横はつては居らぬかと鶴の目鷹の目で皆して考へ込んで居ると云ふのが當支部の現況である、二十周年記念事業も一通りの努力では間に合ふまいと思はれる昨今、マア、下手に餘計な方面に踏み込まない方が探るべき策ではあるまいか、然し何んでもかまはないから思付きの仕事

があつたら是非遠慮なしに申付けて貰いたい紛骨努力する點に於ては決して人後に落ちない覺悟だけはして居るから。

### 會員の異動

□本部としては勿論、當支部内の大建物たる母校の浦生君が昨年末から病廢に襲はれた、丁度それは御大典記念講演會を終へた後引續いてのことで、其の源は云ふまでもなく、山の様な劇務と研究事項とに心身を使ひ過ぎたに他ならぬ。

倉澤君は癩病を氣遣つて前々から随分陸陽助言もしたし、自身あの太つた体を細くしてまでも心配して助力をして呉れたのであつたが、浦生君の氣性として謂はゞ押しして／＼押し潰れて了つたのであつた。然し幸ひ醫癩當を得たのと校長外職員各位を初め倉澤兄や山口兄其他在田各位の紛骨奢まぬ御勞情とにより漸次快方に向ひ癩病以來半年振りで昨今歩行も出来る様になられた、今だから云へるが正月頃の容態からすれば本當にどうなることかと臆を冷した位であつたが、先づ命拾ひしたと云ふてもよからう。斯様な次第で中心人物の引籠りからして爾來整蠱部に對する波及は實際想像も及ばぬものがあつた。即學校としての事務劇増に加へて廿周年記念事業も準備を急がねばならぬ、新卒業生の就職口問題も解決せねばならぬ、新學期は始まると云ふ眼まぐるしき、殆んどおつちり眠れぬ夜も幾度か知れぬ程度の奮闘を續けて呉れた倉澤兄外各位。端夕目にもほんとに氣の毒でもあり、いぢらし

くもあり、そうかと云つて手傳ひ様もないと云ふ状態であつた。全く今度の處は倉澤君の體力が此の難關を漕ぎ抜き得せしめた唯一の力であつたと見るが至當であらう、是れにつけても最少しく平素から母校整蠱部を太らせて餘裕のあるものにして置いて、無理のない餘力ある陣容を編成して内外に對する爲めに整へて貰ひたいと痛感させられるのである。

△南佐久郡臼田の農學校に教鞭を執つて居られた緒方君が香川縣蠶業試驗場へ榮轉され、新卒の友野正路君が其の後を繼ぎ久しく郷縣に居つた製絲科出身の栗田君が小諸の小諸社に赴任された、尙ほ更級郡篠ノ井農學校で敏腕親師を以て知られた後藤幸一君が數年間の教へ子に惜まれながら岐阜縣揖斐實業學校へ榮轉せられ其後任は母校整蠱部で多年研究に従事せられた若林茂一君が此頃赴任した。埴科實業學校の黒江君は一身上の都合で巖に上田の濱井蠶絲科學研究所へ轉ぜられたが近々朝鮮の方へ迎へられる筈人絹で天下に名を成した加美好男君と平澤勝君とは殆んど相前後して母校へ引揚げ第二段の發展を期して目下大いに研究しつゝあり潛勢力養成中。

其他今春卒業せられた熊谷恒次君は上田の蠶業試驗場へ竹内衛佐雄君は長野の蠶業試驗場へ夫々四月新任、蠶品種改良事業の爲めに汗だくと云ふ状態、尙ほ同新卒の關芳男君が下高井農學校の天田君の處へ、井澤喜三君、針塚民一君、北澤孝一君は夫々母校

養蠶部に殘つて研究に精勵せられて居る。

斯くして六名の會員を送り十二名を迎へ現在百十八名の大世界となつたわけである。(T生)

## 山陽支部

わが山陽支部は岡山、廣島、山口と言ふかなり廣範な地域を包含してはゐるが、會員僅かに十七名、而も年々一、二名宛しか増加せぬと言ふ心細さで、今春來伊藤敏之君(絲十五)が岡山縣津山市の郡是工場へ來任あつただけで更に報告すべき材料が無い、止むなく會員の近況を書いてみよう。

小川支部長は尾道市から尾道鐵道の電車で正味一時間北の方へ御調郡奥村で大規模に蠶種製造に余念が無い。本春の如きは原蠶種掃立量九百匁、製造額に於ても將に廣島縣下第一位たらんとの計畫を立て折角努力中である。小川君のお父さん靜吉氏は菊花栽培家としてこれ又廣島縣下第一位と言つてもよい位で「小川芳秋園」の菊花と言へば實に名譽さく／＼たるものがある。毎秋十一月の候山陽線を御通過の同窓生の諸兄は、是非一度尾道市で下車して小川君の菊花を御覽になることを御勧めする。尙春であればチューリップの頃、同君得意のチューリップ園を參觀せらるゝも亦一興であらふ。

藤原卓之君は岡山縣の北都、津山市(これは最近市となつた)の

(六)

東隣、久米公民學校長である。縣下第一の新進として大に將來を嚮望され縦横に活動中。それでも時折は得意の川釣に腕の冴えを見せてゐる。小林輝一君は岡山縣下第一の養蠶地苫田郡農會の幹部として多年津山市に在任信用絶大である。中島靜太郎君と米田俊雄君とは岡山縣の北海道とも言ふべき勝間田農林學校に在職「汽車を見た事の無い生徒」を相手に處女地開拓の意氣込銳し。然し中島君は近來益々肥滿し現在では廿餘貫の巨象の如き休軀を聊か持てあまし氣味ではある。小島杉門君は岡山縣の蠶業取締事務が本職であるが今春は沖繩縣に出張、同地で原蠶飼育をやつて見事な成績を擧げた。宮下義三郎君は岡山縣久世町の郡是製糸でせつせと修養中。

西村敬之助君は先年、永年活動してゐた朝鮮から歸郷、其後病を養つてゐたが一昨秋、小川支部長の令妹で廣島縣立忠海高等女學校教諭のハルニ女史と結婚、平素は月清く波靜かな瀬戸内海の忠海々岸にある新邸で釣魚に陽氣な日を暮し、夏期蠶種製造繁忙には小川支部長の參謀總長として大飛躍中である。

福山市にある山十組製絲工場長小山久一君は昨春福岡縣二日市町から榮轉して來任。廣島縣下第一の大製絲工場を自由自在に切り廻してゐらるゝことは何より心強いことだ。然し激務の爲めか今春、稍健康を害されてゐたが昨今は再び全快。全馬力で活躍中。老練たる佐瀬旭君は昨春母校から來任廣島縣立蠶業試驗場の桑園



部主任として縣下の蠶業界に重きをなし、奥村好一君は縣廳蠶絲課に於て製絲關係の副主任として將來を囑望されてゐる。惜しいことには往年の元氣を棄て、家庭の事情から友重誠三君は高田郡市川村の自宅に引籠つてしまつた。

山口縣の一枚看板とも言ふべき鹽見豊一君は縣廳にあつては比較的振はない同縣蠶業の爲めに萬丈の氣焔を吐いてゐる。又家庭にあつては資産數十萬圓を擁し、山口市内絲米町に豪壯な邸を構へ、極めてブル的生活をしてゐる。恐らく縣廳のお役人、數百名中にも資産君の右に出づる者はあるまいとのこと。小川支部長の話では「鹽見君は縣知事よりも、もつと立派な生活をしてゐる。」との羨み話。同窓生諸兄も同縣視察の際には是非鹽見君を自邸に訪問され度し。

山口縣大島郡久賀農商學校の林和夫君、岡山の倉敷人絹會社の江野村一雄君及今春岡山縣津山市の郡是製絲へ來任の伊藤敏之君等には筆者未だ顔識なき爲め次回へ譲る。

筆者土岡は農林省蠶絲課から中外商業新報社經濟部へ移り、横濱支局勤務となり、此の間四年を過し、後家庭の事情から歸郷し隣縣岡山縣矢鴫高等女學校に奉職、二ヶ年半で其處を辭し、広島縣の自郡に新設せられた沼南實業學校に歸任。早くも又二年半は經つた。年功加俸を頂戴する迄に永續(?)した。此の度は自郡のことではあり、さう今更無暗に飛び出すこともならず、昨春學

校附近に小住宅「眺鯨莊」を建てて今では専念、教育に精進して居ります。この學校は「備後表」の本場である沼隈郡山南村に建てられてある。學校の使命は「如何にして備後表の體價を更に發揮すべきか」にある。従つて本校は蘭草栽培と體表製織を生命として居ります。大正天皇御即位の時も亦昨秋の御大典に際しては高御座の御燵、悠基殿、主基殿の御廳用體表は何れも本村内で謹製申上げたものであります。

これは余分なことですが同窓生諸兄のうちで、備後表の眞品を御希望の方があれば小生迄御申込み下さい。學校實習製作品なら實費で御分譲致します。(相場は多少變動しますが大体拾枚拾貳圓前後です。)

尙多數御入用とあれば當地同業組合なり商人なり適當に御紹介へ致します。

——六二四(土岡光郎記)——